

3-2. 自転車乗員の傷害分析 - (1) 自転車単独事故による死傷者の分析 -

背景・目的

交通事故による死者数は減少しており、負傷者も近年減少傾向にある。自転車が関連した事故に関してもほぼ同様の傾向がみられるが、自転車単独事故では死傷者は増加している。また、実際に臨床の場においても重傷例を経験することがあるが、交通事故に占める割合が小さく交通事故例調査の対象となっていないため、その実態は不明のままである。そこで今回は、自転車単独事故の実態解明と死傷者が増加している原因の究明を目的に分析を行った。

概要

平成10年から平成20年までに発生した自転車単独事故をマクロデータより抽出し、死傷者の年齢、負傷者の重傷度等から、過去11年間の事故の状況とその変遷を俯瞰した。自転車単独事故の事故状況や傷害内容に関しては、いちほら病院の医療情報を用いた。

- (1) 自転車単独事故による死傷者は増加傾向にあり、その4分の1が重傷死亡事故であった。
- (2) 特に重傷事故に関しては近年高い水準で推移しており、傷害主部位は脚部、腕部、頭部の順に多く、中高年層とくに高齢者の割合が大きかった。さらに高齢者の重傷事故では、骨粗鬆症を背景とする傷害が発生しているものと推測される。高齢者では自転車による転倒でも思わぬ重傷事故となり得ることを認識すべきであり、今後益々進む高齢化社会において取り組むべき問題と考える。
- (3) 死亡事故は少数であったが、高齢男性が飲酒後に受傷するという事故の典型像が浮き彫りになった。頭部傷害が主な死因であったが、マイクロ調査の対象外であり実際の症例についての医療情報もないため事故状況および傷害内容の詳細については残念ながら調査することが出来なかった。

今後の課題

- 自転車単独事故による死傷者の医療情報を蓄積すること
- 自転車単独事故の事故状況を調査すること